

北野町山本通伝統的建造物群保存地区

北野町・山本通のある山手地区周辺は、緩やかな南斜面の見晴らしのよい住宅地として早くから外国人たちに注目され、明治 20 年代から本格的な外国人住宅地として発展してきた。現在もキリスト教、イスラム教、ジャイナ教などの寺院が建ち並び、多宗教・多文化が融合した国際的なエリアとして多くの人を魅了している。

異人館と呼ばれる洋風建築と和風建築が混在し、エキゾチックという言葉で代表されるこの個性的な景観を保全・育成するために、神戸市は、1978（昭和 53）年の都市景観条例の制定に伴い、1979（昭和 54）年にこの地区を都市景観形成地域・伝統的建造物群保存地区に指定。その後、1980（昭和 55）年 4 月 10 日には国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された。

現在、33 件の洋風建築、7 件の和風建築が「伝統的建造物」として指定されており、地域のまちづくり団体が、まちの記憶を掘り起こし、北野の歴史を学ぶきっかけにと銘板を取り付けたり、異人館や住宅を火災からまもり、またごみのないまちを実現するために地区全体を「ノースモーキング ゾーン」に指定したりと、美しい景観をまもるために様々な取り組みが行われている。